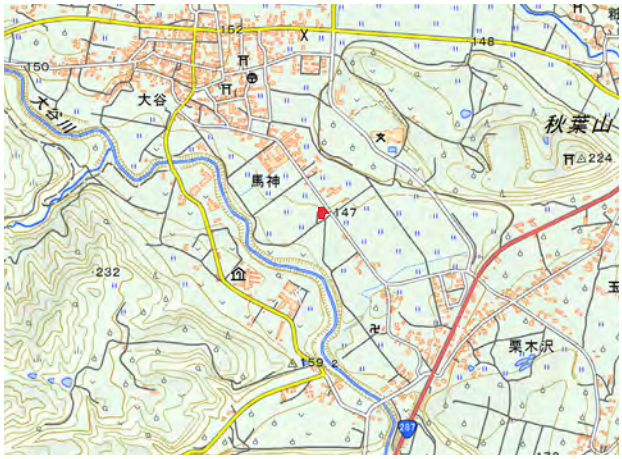
馬神昭和新田遺跡

遺跡番号　323-053
調査次数　第１次
所　在　地　山形県西村山郡朝日町馬神地内
北緯・東経　38 度 20 分 27 秒・140 度 10 分 21 秒
調査委託者　山形県村山総合支庁建設部西村山道路計画課
起因事業　交通安全道路事業　主要地方道長井大江線　大谷工区
調査面積　730㎡
受託期間　令和７年４月１日～令和８年３月 31 日
現地調査　令和７年５月８日～８月 11 日
調査担当者　大場正善（現場責任者）・三浦一樹・大村暖奈
調査協力　朝日町教育委員会
遺跡種別　集落跡
時　　代　縄文時代
遺　　構　土坑・ピット
遺　　物　土偶・縄文土器・石器（文化財認定箱数：13 箱）



遺跡位置図（S ＝ 1:25,000）

調査の概要

今回の調査は、主要地方道長井大江線　大谷工区に伴った発掘になる。調査区は、試掘調査で遺物の出土が確認された範囲を行った。

調査は、遺物が出土する１万年以降に堆積したと考えられる、黒ボク土層（Ⅲ層）の上面まで重機で掘り下げたのち、黒ボク土層からⅣ～Ⅴ層上面まで、人力で遺物の出土を確認しながら掘り下げを実施した。出土した特徴的な遺物については、写真や出土位置の座標測量を行って記録した。

黒ボク土層の下のⅣ層上面では、縄文時代に相当する土坑３基、ピット 32 基、また調査区北半部からは谷状の窪地跡が検出された。検出された遺構は、丁寧に掘り下げ、写真撮影や三次元計測にｙｐる記録作業を実施した。

遺構と遺物

縄文時代に堆積した黒ボク土であるⅢ層からは、その上面において縄文時代晩期（約 2500 年前）に相当する深鉢形土器などが出土した。また、Ⅲ層の中位からは、縄文時代中期（約 4500 年前）に相当する浅鉢形土器や深鉢形土器、及び舟形町西ノ前遺跡で発見された国宝『縄文の女神』と類似した形状の土偶の破片が出土した。土偶の破片は、下腹部から背中の部分で、腹部に渦巻状の文様やへその孔が認められる。背中には、浅い縦の溝も作り出されていることが判明した。

このほか、珪質頁岩製の石匙や棒状のヘラ形石器、磨製石斧などの石器資料が出土した。石匙などの珪質頁岩製石器は大型品が多く、近隣の最上川や五百川渓谷といった珪質頁岩の原産地に近いことを考えると、石器の材料となる珪質頁岩が遺跡の近くで採取されたことを物語っている。



写真１　調査区全景（西から）

これらの遺物は、調査区の北半部を中心に出土していることが確認された。

遺構については、多くはないもの、複数の土坑やピットが検出された。土坑の SK2 では、土坑の埋土中に縄文土器とともに、石器を製作した際に生じる製作屑である、珪質頁岩製の剥片やチップが密集していた。

ピットについては、建物などの柱穴の可能性があるが、建物として組み合うものが確認できなかった。杭や柵などの可能性があるが、これらのピットの性格については、いまのところ不明と言わざるを得ない。

窪地跡は、調査地が耕作地になる前に大谷盆地内に残された旧地形の痕跡と言え、最上川が大谷地区内に流入し、水が引いた際に形成されたと考えられる。Ⅲ層よりも下位の層準で確認できることから、少なくとも縄文時代中期より以前に形成された地形と言える。窪地跡からは遺物が発見されなかったが、現在の地表面よりも地下に古い地形が残されていることが判明した。

なお、調査区の北側は、近年に掘られた大きな穴（カクラン）や木が倒れた倒木痕が数か所認められた。



図１　調査区のオルソ画像（縮尺：1/800）

まとめ

今回の調査では、遺物包含層であるⅢ層の黒ボク土層から、縄文時代晩期と中期の遺物が多数出土することを確認した。とくに、縄文時代中期に相当する舟形町の国宝土偶と類似する土偶の発見は、町内初の発見となる（町内の上郷松原地区のヒデリ田遺跡で、縄文時代中期とされる板状土偶が 1 点発見されている）。また、大型の石器については、材料となる珪質頁岩が豊富に採取できる地域の特色を示していると思われる。

遺構については、数が少ないが、この地での過去の生活の様子を垣間見ることができた。遺物が調査区の北半部に多く出土することから、遺跡の中心部が今回の調査区よりも北方に存在している可能性がある。

今後、今回の調査区より北側を調査することによって、縄文時代以降、大谷の集落で生活していたヒトびとの暮らしが、さらに明らかになっていくことが予想される。



写真２　出土した縄文時代中期の土偶



写真３　縄文土器（晩期）状況（北西から）